

# HYEC.ORG における WinSCP の設定方法

著:HYEC.ORG

## 1. 始めに

このドキュメントは HYEC.ORG サーバへ WinSCP を使って接続する際に必要となる手順についてまとめられています。このドキュメントを読み始める前にキーペアを作成しておいてください。キーペアの作成方法については、「HYEC.ORG におけるキーペアの作成方法」に手順をまとめてありますので、よかったら参照してください。また、WinSCP の入手とインストールも終了していることを前提にしていますので、済ませておいてください。

このドキュメントでは秘密鍵が「c:¥key¥」に格納されていることを前提にしています。別なところに保存してある場合は、便宜読み替えてください。

## 2. WinSCP の設定

それでは早速設定を始めましょう。バージョンによって若干違う部分もあるかもしれませんが、そこらは融通をきかせてください。

それでは WinSCP を起動してください。下記のようなダイアログが表示されるかと思います。



図1: 設定画面 (Session)

ここでは接続先のホスト名やユーザ名、秘密鍵を設定します。「ホスト名」には「[www.hyec.org](http://www.hyec.org)」を、「ユーザ名」には貴方のアカウント名を指定してください。アカウント名については、利用申込が受理された後に HYEC.ORG から送信されるメールに記載されています。「秘密鍵」には作成した秘密鍵を指定します。この例では「c:¥key¥」に保存されている「id\_rsa.PPK」という鍵を指定しています。念のため言っておきますが、ここで指定する秘密鍵はサーバに登録されている公開鍵に対応したものを指定してください。

「ポート番号」は変更しないでください。ただし、「22」以外が指定されていたときは「22」を指定してください。パスワードの欄は何も入力しないでください。秘密鍵を指定すると入力できなくなるはずですが、SCP でのログインではパスワードを一切使用しません。ただし、鍵自体に設定されたパス

ワードは入力しなければなりません。プロトコルは「SCP」に設定してください。HYEC.ORGではSFTPは使用できません。間違って「SFTP」に設定すると接続できません(SFTP(SCP代替を許可)を指定すると接続できますが、無駄が生じます)。

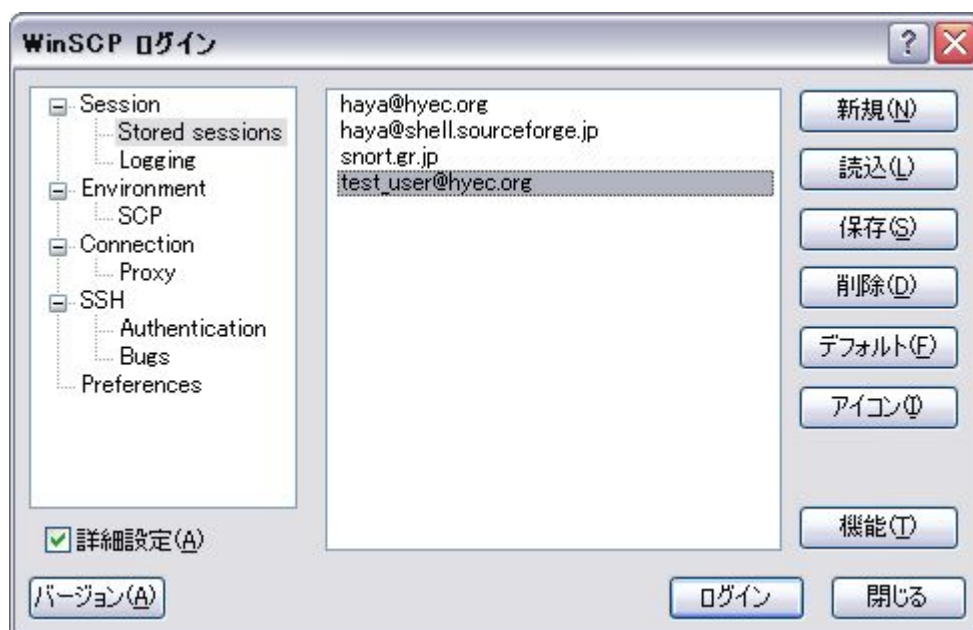


図2: 設定画面 (Stored sessions)



図3: 名前の入力 (セッションの保存名)

この画面では過去に設定した情報を保存したり、呼び出したりすることができます。このドキュメントに記載されたすべての設定が終了した後に、「保存」ボタンをクリックしてください。上記の画面のようなダイアログ(図3)が表示されるので、名前を入力してください。名前は任意に設定できます。

以降、起動直後はこの画面になりますので、名前をダブルクリックするとその接続先へ一発で接続できます。

「アイコン」というボタンをクリックすると、デスクトップにショートカットを作成したり、右クリックしたときに表示される「送る」の中にショートカットを作成したりすることができます。

接続先を選択した状態で「削除」というボタンをクリックすると、その設定情報を削除することができます。削除するときはいくらでも慎重に行ってください。

接続先を選択した状態で「デフォルト」をクリックすると、その接続先がデフォルトになります。つまり、何も指定せずに「ログイン」ボタンをクリックしたときにその接続先へ接続されます。接続先が複数ある場合は、一番よく使う接続先を「デフォルト」に指定しておくのが快適です。



図4: 設定画面 (Logging)

この画面ではログの記録をどうするかについて設定します。通常の利用においては「ログを有効」のチェックをはずしておくといよいでしょう。もし、接続がうまくいかなかったりファイルをサーバに転送できなかったりしたときは、有効にしておくことで問題解決に役立ちます。ログを記録するには「ログを有効」にチェックを入れます。その後、「ログのオプション」のうち、「ログファイル」または「ログウィンドウの表示」にチェックを入れます。

「ログファイル」はHYEC.ORG側が状況を診断する際に必要となります。何か問題が発生し、HYEC.ORG側で診断をする必要があるのなら、ここで指定したログファイルを添付して頂けると助かります。「ログファイル」チェックボックスのすぐ下にあるテキストボックスにはログファイルを記録するファイル名をフルパスで指定します。「...」ボタンをクリックすると見慣れた画面でファイル名と保存場所を指定できます。

なお、その下にある「追記」を選択すると、ログファイルにどんどん追加されて記録されます。頃合いを見て削除しないと、いつの間にか膨大な量のログがたまってしまいます。「上書き」を選択すると、接続の度に上書きされます。膨大な量のログがたまる可能性は低いですが、必要に応じて保存場所かファイル名を変更しないと記録が失われてしまいます。

「ログウィンドウの表示」にチェックを入れると、WinSCPの実行中にログをチェックすることができます。こちらは接続が成功した後の各コマンドの実行状況についての情報が出力されます。こちらの方を添付して頂いてもあまり状況分析には役立ちませんので、個人的に動作をチェックするときに使用してください。

「すべて表示」を選択すると、起動時から現在に至るまでのすべてのログがログウィンドウ中に表示されます。「最後のみ表示」を選択すると、その右側にあるテキストボックスで指定した行数だけがログウィンドウに表示されます。好みに応じて選択するとよいでしょう。

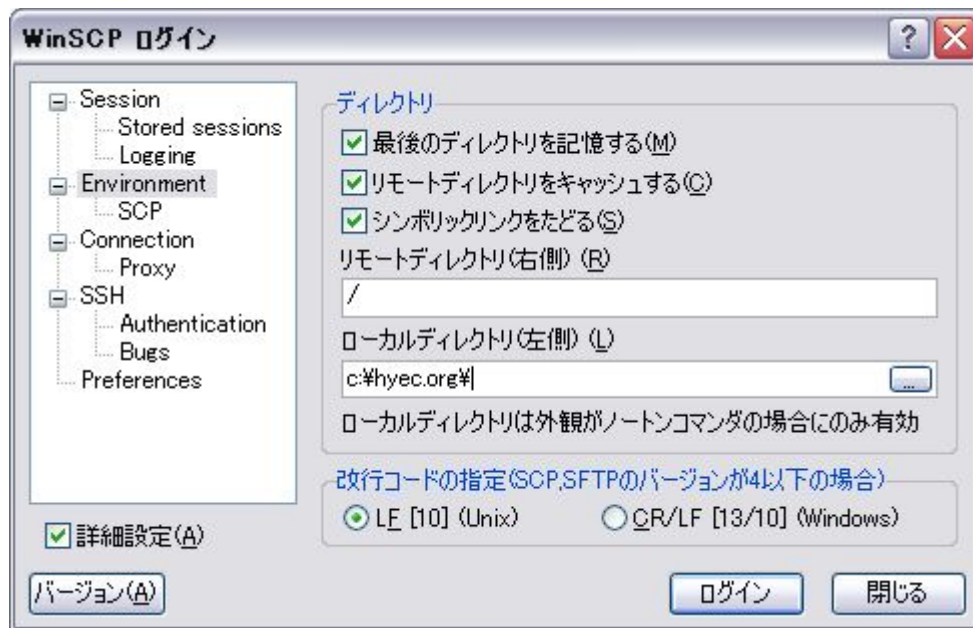


図5: 設定画面 (Environment)

この画面では環境の設定を行います。「最後のディレクトリを記憶する」にチェックを入れると、セッションをクローズした時点で開いていたディレクトリを記憶し、次回の接続時にそのディレクトリが表示されるようになります。「リモートディレクトリをキャッシュする」にチェックを入れると、一度読み込んだディレクトリ情報 (サーバ側) をローカル側に一時的に保存しますので、動作が若干高速になります。「シンボリックリンクをたどる」にチェックを入れると、サーバ上のシンボリックリンク (*Windows* でいうショートカットのようなもの) をたどる事ができます。つまり、普通のディレクトリと同じ感覚でシンボリックリンクを扱うことができます。

「リモートディレクトリ (右側)」には接続直後に表示するサーバ側のディレクトリを指定します。「ローカルディレクトリ (左側)」も同様に、接続直後に表示するローカル (クライアント) 側のディレクトリを指定します。どちらも「最後のディレクトリを記憶する」にチェックを入れておくと、セッションをクローズした時点で更新されます。

「改行コードの指定 (SCP, SFTP のバージョンが 4 以下の場合)」は「LF[10] (Unix)」が選択されていることを確認してください。HYEC.ORG サーバは Linux を採用しているため、「LF[10] (Unix)」を選択することになります。



図6: 設定画面 (SCP)

この画面では SCP による接続情報を設定します。「シェル」には「デフォルト」を指定してください。「入力」を選択すると他のシェルを選択することができますが、HYEC.ORG サーバでは Bash しか用意されていないので、接続できなくなる可能性があります。

「戻り値」には「自動検出」を選択してください。「入力」を選択すると接続できなくなる可能性があります。

「その他のオプション」は「環境変数のクリア」、「エイリアスのクリア」、「LS の警告を無視」にチェックを入れておくとよいでしょう。内容を理解しているのであれば、他のチェックボックスにチェックを付けても構いません。分からなければ上記の通り設定してください。

「タイムゾーン(差)」はサーバとクライアントとの時差を指定します。HYEC.ORG サーバは日本国内に存在し JST (日本標準時) に設定されていますので、「0」にしておいてください。





図7: 設定画面 (Connection)

この画面ではタイムアウトについての設定を行います。よく分からなければ、上記の通り設定しておいてください。「サーバのタイムアウト」にはタイムアウトとして扱うまでの時間を秒単位で指定します。この時間を経過するとタイムアウトとなりますのでご注意ください。

「セッションを保持するために塗るパケットを送信する」にチェックを入れると、「送信間隔(秒)」で指定した秒数ごとにヌルパケットを送信します。この機能をうまく使うことで、ずっと接続させておくことができますが、セキュリティ上の観点から不用意に使用しないことを推奨します。



図8: 設定画面 (Proxy)

この画面ではプロキシサーバについての設定を行います。インターネットへの接続にプロキシサーバを用いている場合はここで必要な情報を設定してください。主にファイアウォール内から通信する際に必要となります。大抵の方は必要ないかと思えます。HYEC.ORGではこの部分については一切分かりませんので、必要な場合はネットワークの管理者にお聞きください。



図9: 設定画面 (SSH)

この画面ではSSHの接続の際に必要な設定を行います。「プロトコルオプション」の「圧縮を有効」にチェックを入れると、サーバとクライアント間の通信が圧縮されます。極端に遅い場合を除いてチェックをはずしておいてください。最近の環境ではあまり差はありません。「SSHプロトコルバージョンの優先順位」は重要です。接続に使用するキーペアの種類によって返る必要があります(本来は「2」か「1」にしておけばよいのですが、誤検出する場合があります)。SSH1のキーペアを用いる場合には「1」を、SSH2のキーペアを用いる場合には「2」を選択してください。

「暗号化オプション」については変更しないことを強く推奨致します。もちろん挙動を理解した上であれば何も言いませんが、挙動を理解しないまま変更すると不要なトラブルを招く可能性があります。



図10: 設定画面 (Authentication)

この画面ではSSHの認証についてのオプションを指定します。HYEC.ORGサーバを利用する限りにおいては、ここでの設定はほとんど影響しませんので、デフォルトのまま変更しないことを推奨します。

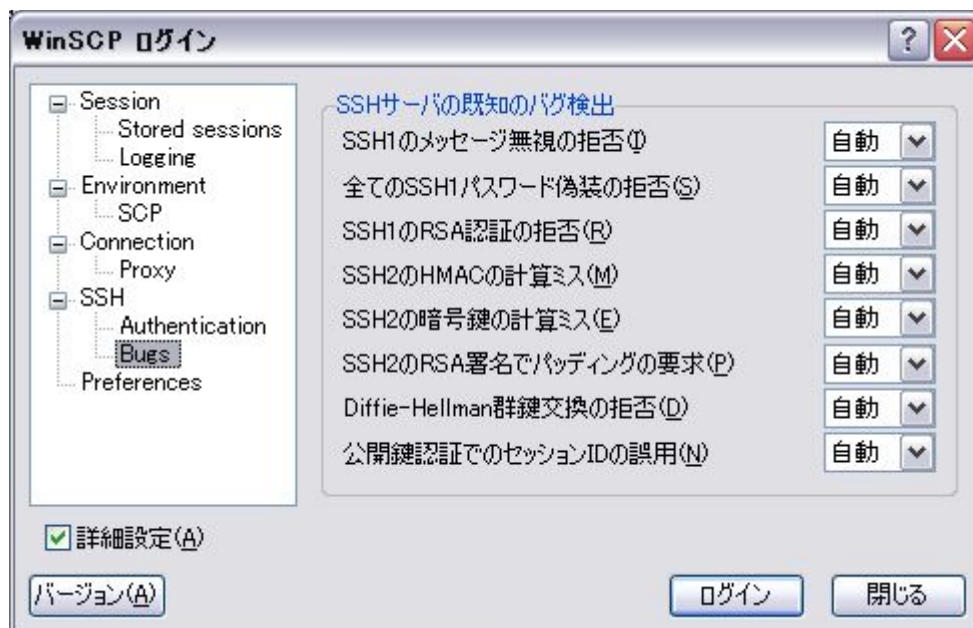


図11: 設定画面 (Bugs)

この画面ではSSHサーバに存在する既知のバグを検出することができます。基本的にすべて「自動」にしておけば問題ありません。



図12: 設定画面 (Preferences)

この画面では外観を設定します。好みで決めて頂いて構いませんが、FTPクライアントのように使用したい場合は「ノートンコマンド」を選択することをおすすめします。

なお、「環境設定」ボタンをクリックすると、さらに細かい設定を行うことができますが、ここでは割愛します。基本的にデフォルトのままで問題ないはずですので、慣れてきたら各自で設定を変更してみてください。



### 3. 接続する



図13: 鍵のパスフレーズを入力

それではHYEC.ORGサーバに接続しましょう。先に述べたとおり、「Stored sessions」に保存した接続先情報からHYEC.ORGサーバへの接続先情報をダブルクリックします。すると上記のようなパスワードを入力するダイアログが表示されます。キーペアを作成したときに指定したパスワードを入力してください。HYEC.ORGから通知されたパスワードではありません。パスワードが一致すると、サーバの公開鍵とクライアントの秘密鍵を用いてログインセッションがスタートします。すべてが成功すると下記のような画面になります(ノートンコマンドを選択した場合)。皆さんが使用している画面と若干違うかもしれませんが、基本的には同じです。

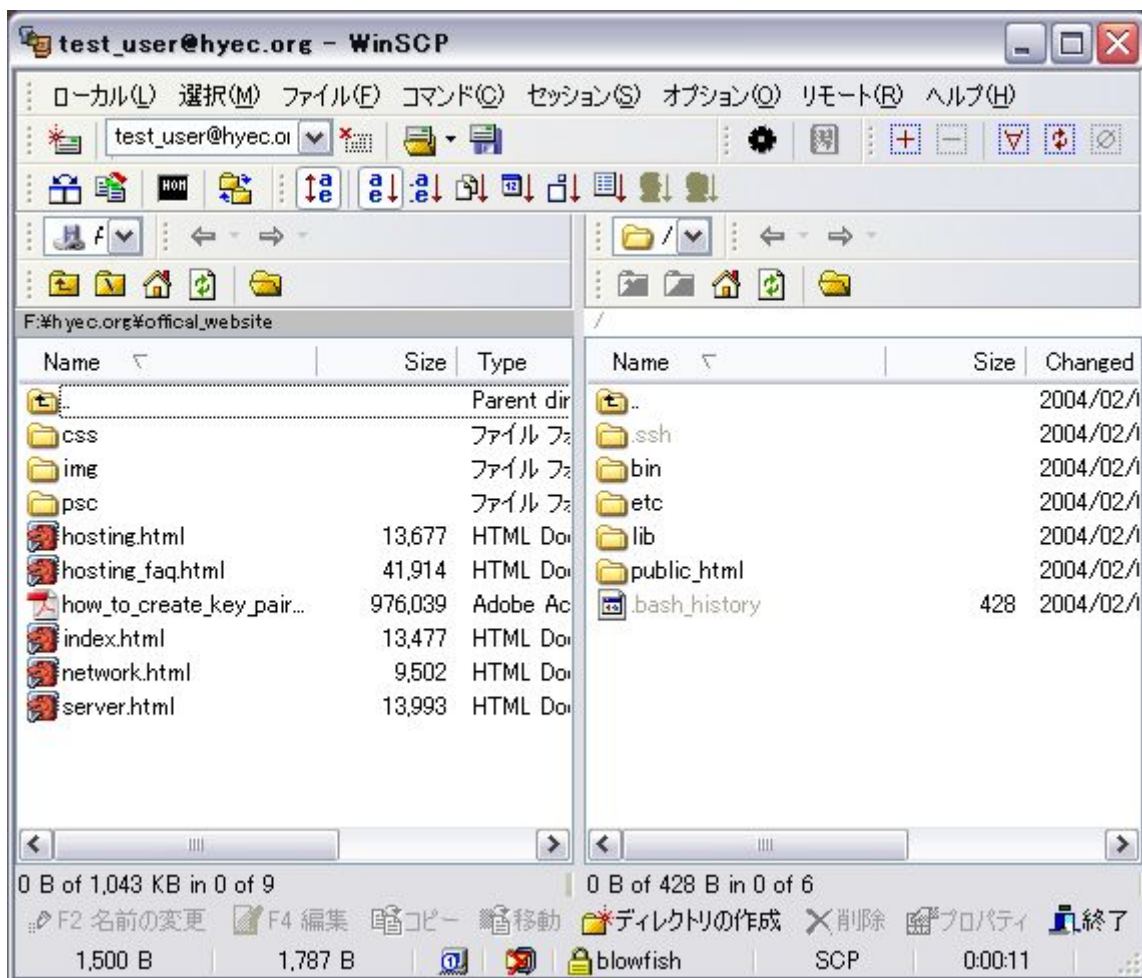


図14: ログインが成功した直後(ノートンコマンドを選択した場合)

上記画面の左側がクライアント側、右側がサーバ側になります。この画面でファイルをドラッグアンドドロップすれば相互に転送することができます。

### 4. 接続終了

いかがでしょうか？意外と簡単ではないではなかったですか？このように一度設定してしまえばFTPクライアントとほぼ同様に使用することができますので、頑張って設定してみてください。